

安全ですか

あなたの住んでいるところは

土砂災害を生む大雨

植木鉢とか庭に土を盛り上げ、そこに水を注いでみましよう。はじめは、水がみるみるうちにしみ込んでいきます。しかし、水を含みきれなくなると、土は崩れ始めます。土砂災害はこうして起こるので

す。土砂災害なんて無縁のもの、被害に遭った人のほとんどがそう思っていたはずで、ところが、雨がしばらく続いたある日、突然に――。地面が崩れるとはふだんだれも思っていない。しかし、台風や梅雨などで一時に多量に降ると、いつもは水の少な

い沢から土砂が流れ出したり、ふだんは丈夫そうに見えるが、崩れ始めます。雨で地盤がゆるむためです。

か日光土木事務所（☎五三一―二二―）、建設省日光砂防工事事務所（☎五四―一九二）へご連絡ください。

これから、台風などによる出水期を迎え、土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害の発生が心配されます。ふだんから注意し、危険だなど思われる箇所があるときは、

土砂災害危険箇所は、全国に約十四万、百九十万世帯が危険にさらされています。あなたの住んでいるところは安全といえるでしょうか。確かめてください。

御幸町商店会で

現金つかみ取りとカラオケ大会

御幸町商店会では、市制三十周年記念の協賛事業として、納涼カラオケ大会やチャリティ生ビールの販売、現金つかみ取り中元セールなどを行います。

ださい。また、七月十五日から八月十日までの期間中、同商店会加盟店で商品を買おうと五百円について一枚の券がもらえ、これが二十五枚になると現金のつかみ取りができます。現金つかみ取りは八月九日と十日、午後六時から九時まで消防本部前の駐車場で

行います。ふるって参加してください。

行います。



シリーズ

「よりの十字路」

助詞の「より」には、大きくわけて二つの異なった使い方があり、一つは、兄は弟より背が高い。春より秋の方が好きだ。などの比較を表す「より」である。他の一つは、

「より」と「から」

は「から」を使おうというのである。そして実際、起点や出発点の場合、特に話し言葉では、ほとんど「から」の方が用いられ、「より」は用いられていない。少し改まった意識の働く文章のときに「より」が見られるが、これは古くからの文語調が残るためと考えられる。

このようなわけで、公用文や新聞では「より」と「から」を使い分けている。参考のために、公用文の場合の使い分けからの引用を掲げる（公用文作成の要領「昭和二十七年」）。

1. 時および場所の起点を示すには、「から」を用いて、「より」は用いない。「より」は、比較を示す場合にだけ用い

例 東京から京都まで。午後一時から始める。恐怖から解放される。長官から説明があった。